

急性虫垂炎について

虫垂炎（ちゅうすいえん）とは？

虫垂とは大腸の一部で、右下腹部にある盲腸（もうちょう）につながっていて、正常の太さは4～5mm、長さは5～7cm程度です（下図）。虫垂炎は俗に盲腸（炎）と言われますが、正しくは虫垂が炎症を起こした病気ですので、「急性虫垂炎」といいます。

原因は？

虫垂の入り口や内腔に便などがつまって、血液やリンパ液の流れが悪くなり、腸内細菌の感染が加わり、虫垂炎が起こると考えられています。虫垂の壁は薄く、炎症が強くなると、すぐに外壁にまで及びます。そのため、炎症が進むと、虫垂の壁が破れてお腹の中に細菌を含んだ便や膿などが広がり、腹膜炎を引き起こします。

症状は？

右下腹部の痛み：みぞおちの痛みから始まり、右下腹部痛に移ることが多く、進行すると、歩くと痛みがひびくようにもなります。

発熱：37～38 くらいのことが多いです。

突然のはきけ、嘔吐、などを伴うこともあります。

しかし、よく似た症状をもつ他の疾患【大腸の炎症である憩室炎（けいしつえん）や、女性の卵巣や卵管の炎症である付属器炎（ふぞくきえん）など】もあり、一般的に考えられているほど、診断は容易ではありません。

診断は？

触診、血液検査、腹部エコー、CT検査などで診断します。

治療は？

発症して早い段階や症状が軽ければ抗生物質の内服や点滴で治療します。俗に「ちらす」と呼ばれる治療です。しかし抗生物質で改善しない場合や、初めから症状の強い場合には手術が必要です。手術は、年齢や状態に応じて、腰椎麻酔（下半身麻酔）あるいは全身麻酔で行います。手術方法は基本的には、炎症を起こしている虫垂を切除すること（虫垂切除）になりますが、腹膜炎になっていてお腹に膿がたまっている場合には、おなかの中にドレーン（管）を入れて膿をお腹の外に出すことも必要です。

入院期間と退院後の生活は？

手術の程度によりますが、虫垂切除のみであれば、翌日から食事が開始され、合併症がなければ、約1週間の入院です。多くの場合、退院後約1週間で、元通りの社会復帰が可能になります。

